

平成26年度

3R推進北海道大会

開催報告書(講演録)

- 開催日／平成27年2月21日(土) 11:00～17:00
- 会場／さっぽろ地下街オーロラタウン内 オーロラプラザ

主 催：北海道地方環境事務所
共 催：農林水産省北海道農政事務所／北海道 / 札幌市
後 援：経済産業省北海道経済産業局
協 力：3R活動推進フォーラム／北海道グリーン購入ネットワーク

目 次

開催概要	1
進行プログラム	2
全体写真	3-4
主催者挨拶	5
3R応援ゆるキャラ大使 任命式	6
絵本読み聞かせ & もったいないトーク	7-18
もったいないトークセッション	19-24
出展PR①	25-26
出展PR②	27-28
エコパフォーマンスショー	29-32
閉会挨拶	33

開催概要

平成26年度3R推進北海道大会

“もったいない”ライフスタイルはじめましょう

- 日 時 : 平成27年 2月21日(土)11:00~17:00
- 主 催 : 北海道地方環境事務所
- 共 催 : 農林水産省北海道農政事務所 / 北海道 / 札幌市
- 後 援 : 経済産業省北海道経済産業局
- 協 力 : 3R活動推進フォーラム / 北海道グリーン購入ネットワーク
- 会 場 : さっぽろ地下街オーロラタウン内 オーロラプラザ
- 参加者数 : 延べ 約800名



進行プログラム

TIME	LAP	PROGRAM	CAST	CONTENTS
11:00		イベント開始		※展示・ワークショップ等開催
11:00	2	オープニング	MC: 高嶋 伴子	
12:00	3	出展PR①	㈱マテック様	
12:05	40	エコパフォーマンス①	エコフォーマー RIO氏	・MCより紹介 RIO氏登場 ・パフォーマンス ・MCインタビュー
次ステージ準備 ※イベント告知コメント / MC 12:50～テレビ父さん もったいないばあさんグリーティング				
13:00	5	主催者挨拶	北海道地方環境事務所 徳丸 久衛 所長	・開催挨拶 ・テレビ父さん 「3R応援ゆるキャラ大使」任命式
13:10	70	絵本読み聞かせ& もったいないトーク	絵本作家 真珠まりこ氏	・MCにより紹介 ●真珠まりこ先生登場 ●「もったいないばあさん」等 読み聞かせ ●その他もったいないばあさんご紹介 ●もったいないばあさん登場 ●もったいないばあさん音頭
次ステージ準備 テレビ父さん グリーティング / 14:20～ 真珠先生・もったいないばあさん紀伊國屋書店にてサイン会				
14:30	30	もったいない トークセッション	㈱エコノス 代表取締役社長 長谷川 勝也氏 丸吉日新堂印刷㈱ 代表取締役 阿部 晋也氏 MC	・MCにより紹介 2社登場 ①エコノス 長谷川社長 ②丸吉日新堂印刷 阿部社長 ・MCX 2社トークセッション
次ステージ準備 ※イベント告知コメント / MC				
15:05	3	出展PR②	(一社) 札幌消費者協会 様	
15:10	40	エコパフォーマンス②	エコフォーマー RIO氏	・MCより紹介 RIO氏登場 ・パフォーマンス ・MCインタビュー
※イベント告知コメント / MC 16:00～もったいないばあさん・テレビ父さん グリーティング				
16:55	5	クロージング	北海道地方環境事務所 永井 均課長 MC	閉会挨拶



【主催者挨拶】 北海道地方環境事務所 所長 徳丸 久衛



【絵本読み聞かせ&もったいないトーク】 絵本作家 真珠 まりに先生



【もったいないトークセッション】

(株)エコノス 代表取締役社長 長谷川 勝也 氏
丸吉日新堂印刷(株) 代表取締役 阿部 晋也 氏



【出展PR】

- ①株式会社マテック 千歳支店 システム企画開発部 課長 村中久敏 氏
- ②一般社団法人 札幌消費者協会 理事 奥谷 直子 氏



【エコパフォーマンス 3つのRを学ぶエコパフォーマンス】

エコパフォーマー RIO 氏



【閉会挨拶】

北海道地方環境事務所 環境対策課 課長 永井 均

司会進行(トークステージ・トークセッション時コーディネーター含) 高嶋伴子氏

主催者挨拶

北海道地方環境事務所 所長 徳丸 久衛

本日は平成26年度3R推進北海道大会にご来場いただき、誠にありがとうございます。本大会は既に午前中から開催しておりますが、主催者として、ここで一言ごあいさつさせていただきます。

北海道の冬は大変厳しい環境で、雪と氷に閉ざされる地域が多いためですが、先週、先々週は「さっぽろ雪まつり」が開かれるなど、北海道の各地で雪や氷にまつわるいろいろなイベントが行われております。厳しい環境の中でも、そのような楽しみが各地に見られます。

北海道ですから広い大地があり、豊かな自然、素晴らしい風景があります。そこから産出されてくる海の幸、山の幸、大地の幸も素晴らしいものです。これらはすべて、この素晴らしい環境の中から生まれているものです。ぜひ、この環境をこのまま、何世代も後に残して残していきたいなと私は思いますし、皆様もそのように思われていると思います。

国では、このような素晴らしい環境をずっと残していく社会を持続可能な社会と名付けており、その実現のために様々な取り組みをさせていただいているところです。持続可能な社会とはどのような社会なのか、国の環境基本計画の中では3つの側面を出しております。温暖化を進めない低炭素社会、資源を使い捨てにしない循環型社会、そして自然との共生社会という側面です。

本日の大会は、その中でも循環型社会の推進に向けたイベントとなっております。このように申し上げると大変硬い催しのように思われるかもしれませんが、絵本「もったいないばあさん」作者の真珠まりこ先生による読み聞かせや、エコパフォーマーのRIO(リオ)さんによるパフォーマンスであったり、トークセッション、ゲーム形式のワークショップであったりと、大人から子供まで楽しく3Rを学び、そして「もったいない」をテーマとしてなるべくごみを減らすライフスタイルや資源のリサイクルを考えていただける内容としています。

今日は、このあと「さっぽろテレビ塔のテレビ父さん」を一日3R応援大使として任命し、活躍していただくこととしています。また、「もったいないばあさん」も先ほどからお手伝いいただいております。皆様、お気軽にご参加していただければと思います。

最後に、このイベントにご協力いただいております団体、企業の皆様、そして関係行政機関の皆様に、この場で改めて御礼申し上げ、私のごあいさつとさせていただきます。よろしくお願いたします。



3R応援ゆるキャラ大使 任命式

北海道地方環境事務所 所長 徳丸 久衛
さっぽろテレビ塔 テレビ父さん



絵本読み聞かせ & もったいないトーク

絵本作家 真珠 まりこ 先生

(コーディネーター: 高嶋 伴子氏)



MC: 皆様、お待たせいたしました。本日は、平成26年度3R推進北海道大会、もったいないライフスタイルを始めましょうにお越しいただきまして誠にありがとうございました。さあ、今日はたくさんの皆様にお越しいただきました。この後の、読み聞かせとトークステージは勿論なのですが、5時までおこなっております開場内のエコクイズまたはクイズラリー、パネル展示などもあわせてご覧くださいませ。

さあ、ここからは、もったいないばあさんの絵本作家、真珠まりこ先生をお迎えいたしまして読み聞かせと、トークステージをお楽しみいただきます。まずは、お迎えする前にお越しいただきました皆様にご案内なのですけれども、会場内の皆様、この後の読み聞かせとトークステージなのですが動画の撮影はご遠慮いただいております。ご協力をお願いいたします。また、写真撮影はOKなのですけれども、撮っていただいた写真をSNS、ブログやフェイスブック、ツイッターなどへの投稿は、ご遠慮いただければと思います。

会場の皆様、是非 ご協力をお願いいたします。それではお迎えいたしましょう。もったいないばあさんの絵本作家、真珠まりこ先生です。どうぞ、宜しくお願いします。それでは、どうぞお座りください。

MC: 今日はいくつお願いします。

真珠先生: 宜しくお願いします。

MC: さあ、それではまずは朗読をと言いたいところなのですが、札幌、北海道はどれくらいぶりでしょうか？

真珠先生: たぶん、半年ぶりぐらいかな、わりと良く伺うところなので

MC: いつも、札幌や北海道に来る時、何か楽しみにしていることありますか？

真珠先生: 美味しい食べ物を食べる事と、お友達に会うことです。

MC: 今日はたくさんの皆様にお越しいただいてます。もったいないばあさんの本読んだことがあるという方いらっしゃいますか？

真珠先生: ありがとうございます。

MC: 笑顔で「はい」と手をあげてくれるのが一番うれしいですね。そんな今日は、もったいないばあさんの絵本なのですが、朗読とまた先生のお話なども詳しく聞かせていただきます。

では、まずは先生から、もったいないばあさんの朗読をいただきます。お願いいたします。

真珠先生: 『もったいないばあさん』 朗読



MC:ありがとうございました。最初、もったいないばあさん、ちょっと怖かったのですが、でも最後の方になってくると愛おしく感じてきますよね、特に色鉛筆、まとめて虹にする部分なんて子供から虹って声があがるの聞こえました？

真珠先生:いつも、そう言ってくれるお友達がいるのでありがとうございます

MC:さあ、このもったいないばあさんなのですが、真珠先生が、このもったいないばあさんを書こうと思ったきっかけと言うのは何かあるのでしょうか？

真珠先生:うちの息子が今、高校一年生なのですが、その子が4歳の時に私にもったいないってどういう意味かって聞いてきたことがあるのですね、4歳の子供って質問攻めにしてくる時期であれなかに、これなかに、どうしてそうなのと色々聞いてきて、その度にうまく答えていたのですが、もったいないという言葉だけが他の一言に置きかえることができなくて、言葉につまっちゃったのですね

MC:もったいないって、なあにと聞くということは先生自身も、お子さんにもったいないと言っていたということですよね

真珠先生:その時、たぶんその前も言っていたかもしれないのですが、その時はご飯を食べ残していたので全部食べようねって言うと、どうして残しちゃいけないのって聞かれて、もったいないからよって言うと、もったいないってどういう意味？と聞いてきたんですよ。答えられなかったのなぜ答えられないのかなと思って考えた時に、どうしてそれをもったいないと思うのか、なぜ、それを大事の思うのかの理由も説明しないと説明できない言葉だから、説明が長くなっちゃって、一言に置きかえることができないということに気付いたのですね。

MC:確かに、もったいないを一言で完結に伝える、置き換える言葉ってないですよ。そういったことから説明をする手段として絵本を書いているんですか。

真珠先生:小さい子供は、なかなか長い文章を言ってもわかりにくいし、途中で聞いていないので、絵本を読んで、なんとなく意味がわかってくれたらいいかなと思ったのですね。

真珠先生:心で思うように、イメージで理解することはできると思うので、絵本を使うことが良かったのですけれども、他の言葉でも説明しきれないときには、もったいないということを説明するのにぴったりな本を見つけられなかったのですよね。それで、自分で作ってみようと思ったのが、もったいないばあさんです。

MC:あの、ご自分で言葉で説明するよりは、絵本を書いていく事の方が伝わるなっていうことは絵本を書いているときでも実感することはありましたか？

真珠先生:そうですね、その当時、まだ子供4歳、5歳の時に出了たのですが、どういう本を子供が好きかということを感じてわかっていたのですね、だからこのようにすれば子供たちが集中してみと来て、しかももったいないの意味もわかるし、親としてもいいし、子供にもいいんじゃないかなと言う風に思いました。

MC:今、高校生になった息子さんも、ご自分ももったいないってなあにと言ったことがきっかけで、お母さんがこの絵本を描くようになったということは想像してなかったでしょうね。

真珠先生:そうですね、僕の一言で随分話が大きくなったねと言っています。

MC:でも、確かに大きくなったというよりは、皆さんに広まったって言い方の方がうれしいですよ。

真珠先生:そうかもしれないですね、もったいないってどういう意味？って子供に聞かれて作ったのですけれども、もったいないの意味を、子供がわからない生活をしているかもしれないということその時、気づいたのですね。ご飯を残していても、忙しくて習い事とか自分の用事とかで、だから残してもいいから早くしてって、子供に言ってしまったのかもしれないと思ったりとか、安いものがあふれているので、何か壊れても直すよりは新しいものを買った方が安かったり便利だったりすることが多くて、子供にまた買えばいいじゃんって言われるかもしれない生活をしていることに気づいたのですね。私は、親からもったいないって言われて育てているけれども、子供達ももったいないがわからない生活をずっと続けていたら、社会はどうなるのだろうと思ってこわくなったんですよ。だから、そのような意味もちゃんと伝えていかないといけないなというふうに思いました。

絵本読み聞かせ & もったいないトーク

MC:この、もったいないという意味を伝えるという絵本を書きながらも、伝えられない自分の生活も見直すきっかけになったということなのですね。確かに忙しいと残してもいいかな、そのまま学校に行く準備してなんて、もしかしたら覚えていなくても言っているかもしれないですね。

真珠先生:忙しさを優先してしまって、ものを大事にするということをおろそかにしていたかもしれないなと思いました。

MC:真珠先生が、今お母さんからもったいないって言われていたお話なのですけども、もったいないの後にくる、このもったいない母さん、絵本ならもったいない女の子、色々あったと思うのですが、ばあさんにした理由というのは何かあるのですか？

真珠先生:もったいないばあさんしか考えられなかったんですけど、知恵を伝えるおばあさんなのですね、もったいないばあさんは、知恵があれば捨てられるものでも、またお宝に代わるかもしれない、また新しいものに生まれ変わるかもしれない、知恵がなければ、ただのゴミになって、もったいないことになってしまう。もったいないばあさんは、知恵を伝えるおばあさんという役割があるのですが、おばあちゃんの知恵袋というようにおじいちゃんも知恵を伝えるとは思いますが、なんかおばあちゃんが自然かなと思いました。

MC:本当に、一番ばあさんという言葉がもったいないとイコールになるぐらいじっくりきますものね。

真珠先生:ありがとうございます。

MC:もったいないばあさんなのですけども、真珠先生のお母さんではないですよね？モデルは他にいらっしゃるのですか？

真珠先生:最初、もったいないばあさんの絵本を出版社さんに持ち込んだ時に、黒い丸点のキティちゃんみたいな顔を書いていたのですね、

MC:この、ばあさんではなかった。

真珠先生:違っていたのです。もっと、ぼーっとしたような顔だったんですけど、もったいないばあさんって一回聞いたら忘れないような、ちょっと強い名前だと思うのですが、その名前に合うだけの一回見たら忘れないような顔を考えて来て下さいと言われたのですね、でもなかなか思いつかなくて、ある日、ひらめきがあって観音さまの写真を見ていた時にはと思ったのですね。観音さまのお目は半分開いた半眼と言われていたのですが、どこを見ているかわからないけれど全部見ているよっていう目ですね。もったいないことしていたら、どこから見ているかわからないけれど全部見ているよって飛んでくるよってところが、観音さまをモデルにさせて頂いたらいいかなと思いました。

MC:確かに目の部分が観音さまだと言われるとそうですね、観音さまと、もったいないばあさんに通じる場所は、とにかくいろんなところを見ますよということですね

真珠先生:そうですね、後一見、厳しいことを言って怖いと思われるかもしれないけれど、本当は心にたくさん愛のあるおばあさんということも観音さまをモデルにと思いながら書かせていただきました。

MC:たしかに観音さまというのは、おてんとうさまも色々なところを見ているというのがありますから、私達が見ていないところでも色々な事を観音さまは考えてくれているのだという教えの部分もあるのでしょうかね。

真珠先生:そうですね、もったいないことをしたらもったいないばあさんが見ていて飛んでくるよということですね。

MC:ご自身が、もったいないばあさんの絵本を書いたことで、何か劇的にというか生活が変わったことありますか？

真珠先生:すごく変わったと思います。もったいないばあさん、色々なところで登場して連載をさせていただいて、その話も後でさせていただくのですが、たくさん、もったいないばあさんの話が必要になったのですね。

MC:この本だけではなくその他にも、もったいないを伝えるものが必要になってきた。

真珠先生:もったいないばあさんのお話、エピソードがたくさん必要になったので、もったいないばあさんのような生活を心がけるようになって、いろんな知恵を教えてください。自分も実践してから人に伝えないと、間違っただけを伝えたりしても困るので自分でやったりするようになったんですね。お味噌とかも自分で作り、おつけものをつけたりとか染物をしたりとか全部、自分で一度実践してからやるので生活が豊かになったような気がします。

MC:本を書くことで自分の趣味も広がったということですね

真珠先生:そうですね、興味もあるし楽しいです。

MC:ご自身で味噌も作り染物をされるし、ご自分で作ってないものと言ったらどんなものがありますか、それか、これからちょっと挑戦してみようかなと思っていることありますか？

真珠先生:酵母とかですかね、マニアックというか、そういうものもやってみたいと思います。

MC:先生の趣味が、さらに広がることによって、色んな本がこれからどんどん色んな種類のもったいないばあさんがでてくるかもしれないということですね。最初の本が、もったいないばあさんということでその他にもいろんな本、出しているのですよね

真珠先生:もったいないばあさんの顔の絵描き歌もありますので、機会がありましたら遊んでみてください。

MC:難しそうなのですが、観音さまも半目の状態、これが特徴なのでこれさえ上手く描ければわりともったいないばあさん描けそうですね。絵描き歌を使えばどんな方でも簡単に描けるのでもったいないばあさんのお話会というものをさしてもらう時があるんですけど、その時には子供達と一緒に描いて遊んだりします。

MC:ちょうど今、本ではもったいないばあさんの顔を皆様に見ていただいているのですが、モニターの方にはもったいないばあさんの絵描き歌の書き順が書いておられますので、この絵描き歌が書いてある本というのはどれに入っているのか決まっていないのでしょうか？

真珠先生:もったいないばあさん音頭というCDブックがあるのですけれども、そのカップリングに入っていますのでよろしければ是非、子供達と遊んでみてください。

MC:かわいらしい、自分でアレンジして他のばあさんにするのも面白いかもかもしれませんね、ありがとうございます。絵描き歌はもちろんなのですがこの本だけじゃない色んな本が出版されているようなのですが。

真珠先生:『もったいないばあさんのいただきます』最初の本が、もったいないということをほとんど紹介してあった本なので、ご飯の食べ残し、紙をくちやくちやにして、ほいと捨てる、ごみの出しっぱなしとか、次の本というのがなかなか難しかったのですね、けれど、いただきますというのはもったいないばあさんがいつも言っていることの1つなので、次はこの本がいいと思って作った本なのです。けれども、いただきますというのはごはんを食べる時にいう言葉ですね、これは命をいただくという言葉だそうですね。私達は色々な命をいただいて生きている、命とあるものを粗末にするのはもったいないというのが、もったいないのそもそもの意味なのですよね、もったいないは元々、仏教の言葉で仏教ではすべてのものに命がある、全てのものは仏になって命があるから、ものを粗末にしてはいけないという命の大切さを伝える言葉なのだそうですね。なぜ、食べ残しをするのがもったいないのかということ伝えたくてこの本を作りました。

MC:この、もったいないばあさんの次にでてきたものがいただきます、やはり生活のなかで食が一番大事というのも大きくあるのでしょうか？次にくるのがやはりご飯だったのかなという感じがするのですが。

真珠先生:ご飯を食べることは大事ですよ、感謝しながら食べるということ、残さずに食べるということも大事だと思うので聞いてください。

MC:今日は朝、食べた朝ご飯ですか、夜食べる予定の夜ご飯など想像しながらいただきますの絵本、朗読宜しくお願いします。

真珠先生:

『もったいないばあさんのいただきます』

朗読

絵本読み聞かせ & もったいないトーク

MC: ありがとうございました。『もったいないばあさんのいただきます』朗読いただきました。先程も言ったように手をあわせていただきます、命をいただくということを絵本にする時にそのまま命をいただくと書くと正直、ちょっと壮大すぎて難しいなという思いがあるのですが、命をいただくということをかみ砕いて絵本にすることの難しさってあったと思うのですが、どういった点が苦労されましたか？

真珠先生:それは難しすぎて、そんなことを考えていたらうまくできなかつたと思うのですが、食べ物というのは自然の恵みと作ってくれた人に感謝して、ありがとうと残さないように食べようねということ言えば、子供はそれでいっぱいいっばいだと思うので、それをずっと覚えていてくれて、大人になってから命の大切さというのが頭でわかるようになるかなと思います。

MC: 読み聞かせをすることで、子供達が成長したときに何処で何かのきっかけで繋がっていくとか、思いだしてくれれば命を大切にすることにつながるということだと思いますものね。

真珠先生:そうですね、命の大切さを伝えるってすごく難しいことなのでこの本だけでは無理だと思うのですが、いろんなところで家庭の中でもちょっとずつ感じていって、それがだんだんわかればいいんじゃないかなと思います。

MC: 命をいただくという大切さという例えば、いただきます、残さずに食べるということもそうなのですが、お肉料理ですか、お魚料理などを一緒に調理することによって大切さを伝えられたりするのかもしれないですね。

真珠先生:そうかもしれないですね、動物を飼っていたりすると生きているということが現実にはわかったりするんで、動物園の人に聞いたのですが、動物にさわれない子供達も多いそうですね、もっと生き物が昔は身近にいたのですが、そういう生活も変わってしまったりだとか、わかりにくいことになっちゃったのかもしれないですね。

MC: どうして残したらいけないのって言う疑問ってあらためて問いかけられるとすぐに答えってなかなか出てこない、ちょっと大人としてもこの問いかけってびっくりすること、どきっとする部分でもありますものね。今日の夕ご飯残さないようにしっかり食べようと思います。さあ、それではもったいないばあさんのいただきます朗読いただいたのですが、このもったいないばあさん、色々なものがでてくることと思いますが、もったいないという事を皆さんに伝える手段としてかるたがあると聞いたのですがご紹介をお願いします。

真珠先生:あ から ん まで、なんとかかんとかもったいないという札があるかるたがでているのですけれども、たとえば ま これは何がもったいないでしょう。わかる人いますか？

MC:手をあげていただきましょう、こちらが ま なんです、かるたの最後の文章が ま で始まって最後何々するともったいない、わかる方おられますか、自信なくても大丈夫ですよ

真珠先生:これは学ばないのはもったいないという札ですね、次 これも簡単ですね みなさん知っていますね、どうですか？

MC:は でわかる方いらっしゃいますか？手をあげていただきましょう？わかる人？

お客さん:ばいきん

真珠先生:はい、そうですね、虫歯菌がうじゃうじゃいるから歯磨きしないのもったいないですね。

MC:歯磨きしないのもったいない

真珠先生:これは後で増やして間に合わなかつた札なのですが、モニターの方見ていただけますか？

MC:な ですね

真珠先生:なんか壊れていますよ。そうですね直して使わないのはもったいない

MC:次にテレビに、ばあさんの顔が大画面で映っていますけれども、どなたかわかる方いらっしゃいますか？男性の方

お客さん:テレビのつけっぱなしはもったいない

真珠先生:ピンポン

MC:正解です。ありがとうございます。

真珠先生:テレビのつけっぱなし もったいない。はい、これはちょっと難しいですけど

MC:もったいないばあさんが、すごい顔であっかんべーしていますけれども

真珠先生:おもしろい顔、もったいないというお友達もいるのですが、おもしろい顔はもったいなくないですね。これは、怒ってばかりじゃもったいないという札なのですけれども、笑う門には福きたる、笑っている人のところには楽しいこといっぱい集まってくるけれども怒っている人は怖いからみんな離れていってしまいますよね、笑おうよ 怒ってばかりじゃもったいないという札です。

MC:確かに絵本読んでいても最初はもったいないばあさん、ダメだよもったいないと怒っているのですけれども最後、必ず笑顔ですものね

真珠先生:そうですかね、そうであってほしいですね

MC:さあ続きましたのカルタなのですが

真珠先生:これはもったいないで終わらないのですが、もったいないばあさんの口ぐせです。さっきもできました。一粒のこさず食べるべし、ご飯粒にはうるさいので、私がうるさいのですけれども、ご飯粒だけは残さないように、せめてそれぐらいはというふうに思います。

MC:私とかだと最後につまむご飯がおいしかったりませんか？

真珠先生:いい人ですね

MC:やっとなつめたというか、つかめた嬉しさもあるんですけど(笑)

真珠先生:ご飯粒だけは残さないようにと子供に言っています。

MC:最後にもったいないとつくのではなくて一粒残さず食べるべし。さあ、それでは 次のカルタいきましょう。

真珠先生:これはおばちゃんを知らないかわからないかもしれないですね

MC:知っている方。おばちゃんは真珠先生ではないですよ、冗談です。でも、怒っていますよね

真珠先生:このおばちゃんは、後でご紹介する連載の本にでてくるのですけれども、がちゃばあというもったいないばあさんのかたき役のおばちゃんなのです。もったいないことばかりするので、いつももったいないばあさんに怒られているのですよね、この がちゃばあ がお金持ちで新しいものができるとまだ使えるものをいっぱい捨てて、ばんばん新しいものを買うのです。だけど人に貸すのはいや、自分だけのものっていう、そういうのけちだと思うのです、私。もったいないばあさんの絵本を最初、作ったときに凄くけちんぽのおばあさんだねと言われたことがあるのですけど、その時にけちとは違うのじゃないかなと思ったのです。けちというのは、この がちゃばあ のおばちゃんみたいに自分だけのもの、人にはあげないっていうその執着ですね、でも、もったいないばあさんのもったいないには、愛があつて良いものほど人に分け与えた方が楽しいと思つているし、自分が好きだから、それを大事にしたいと思つたのです。例えば、ここについているかんざしは、七五三の時に買ってもらったかんざしを長い間ずっとこれかわいいじゃろと言つて持っている、その大事にするものを、自分が好きなものを長く大事にする、使い捨てではなくて、そういうおばあちゃんというところでもったいないばあさんと、わかりやすい反対のおばさんということで、この がちゃばあが登場しているのです。



絵本読み聞かせ & もったいないトーク

MC: 対のキャラクターが今、先生がおっしゃったけちなお婆さんというのがすごく表れている絵ですね、

真珠先生: そうですね、けちとは違うもったいないという札でした。

MC: 確かに言葉を代えるとあたらしいものはこのがちゃばあ が買ってもいいけれど古くなったものはまだ使いたいと思う方、リサイクルにまわせるものをそこで循環させていくことも大事ですよ。

真珠先生: ばんばん捨ててゴミが増えるというのは地球がゴミだらけになってしまうと思うのでゴミを減らしていく努力というのは当然、必要だしそれを減らすための知恵はみんな考えてわけあったら、なお良いと思います。

MC: 最初にもったいないばあさんの本を出された時にけちだというのは言われたことなのでしょうかね

真珠先生: 一人に言われてずっと思っているのですけれども、でも そういわれてもおかしくないかもしれないなどその時は思ったのですがなんか違うなどは思ったのです。

MC: じゃあ、け というのはどんな文章になるのでしょうか？

真珠先生: けちとは違うもったいないです。

MC: 怒られて怒りかえしていますね がちゃばあさん それでは続いていきましょう。 む です。美味しいラーメンですね、わかる方？

お客様: ラーメンの汁をのこるのはもったいない

真珠先生: ラーメンの汁にはそんなにこだわらないのですけど・・・ラーメンのびたかもったいないです。

MC: のびるともういやということになってもったいないことになってしまいますものね

真珠先生: 美味しくなくなっちゃう。

MC: 続いていきましょう、む です。

真珠先生: これ誰かににっていますね、誰かわかりますか？

MC: ばあさんではないですよ、頭にリボンつけて三つ編みにしていますね

真珠先生: これはばあさんです。これは昔は、もったいない姉さんじゃったという札なのです。

昔からもったいない、もったいないという人だった、もったいない姉さんがもったいない母さんになって今はもったいないばあさんです。

MC: ということはばあさんの若い頃の写真と思えばいいですか

真珠先生: そうですね、写真です。白黒じゃないですけど・・・

MC: 続きましては

真珠先生: 世界のみんな、仲良くしないのもったいないという札です。

MC: ありがとうございます。最後に せ を持ってきた思いはご自身でありますか？

真珠先生: この札の話をするときに私の活動についてもお話しているのですがもったいないばあさんのワールドレポート展という活動を2008年からして今、世界でなにが起きていてそれが私達の暮らしとどうつながっているのかを伝えるもったいないばあさんのワールドレポート展という展示会をしているのです。その展示会の内容は1と2があって1の方が地球の問題の全体像を伝えています。それがこの青い方の本になっているのですがパート2の方は生き物が消える問題だけを特に特集して生き物が消えるという黄色い本の方にまとまっています。丸山動物園でも展示会を1も2もさせていただいたことがあったりとかこの近くでもいっぱい展示会をしていただいたので、もしかしたら見ていただいた方もいるかもしれません。その内容はパート1の地球の問題の全体像はユニセフさんにご協力していただいて講演もしていただいているのですがユニセフで紹介されている世界の子供達の話がでできます。



MC: 子供達の話は先生が書かれたのですか？

真珠先生: 絵は私が書いたのですが話はユニセフさんの話をお借りしてご紹介しているのですね。

MC: もったいないばあさんとはまた違ったタッチで更に世界で起こっていることをより絵で伝えていきますよね。

真珠先生: 写真だとつらすぎてみるのがつらいというお子様もいらっしゃるの絵だと子供も見ることができましたと言われることもあったりします。今、このような問題、色々な問題がありますけど天気がおかしくなって気候変動ですね、森が消える、生き物が消える、食べ物がない、水が足りない、そして戦争がおきていたり、格差の問題、貧困、子供達が働かされていたり色々な問題があるのですがそういう問題は命を一番に考えていたら全部起きなかったと思ったのですね、だから命の大切さを伝えるもったいないという言葉でメッセージをお伝えしたらよりわかりやすいかなと思いました。もったいないばあさんが言っているとお話ししたらみんな聞いてくれるかなと言う風に思ったのですね。

MC: ということはもったいないばあさんが世界に届けているものとは本当にたくさんものになっていきますよね。

真珠先生: まさか自分もそこまで話が広がると思っていなかったのですがワングリマータイさんってご存知ですか、ノーベル平和賞を受賞されて...

MC: 今日のクイズラリーでも出題されているのですよ。もったいないという言葉の世界に広げた方ですよね。

真珠先生: 2005年の2月にマータイさんが国連でもったいないと皆に言いましょと言われて、そしてこの2月にもったいないのイベントをすることになったのですよね、マータイさん、私も何回かお会いしたことがあるのですがワングリさんがおっしゃっているのは3R、リユース、リデュース、リサイクルを推進されていたのですがそれ一言で表すのがもったいないという言葉だと思われて世界に発表したのですが3R以外に4つめのR リスペクトという言葉が含まれているから、だから世界平和につながるのだとおっしゃっていたのですね、

MC: 尊敬する敬うという気持ちで...

真珠先生: 相手を大事に思うという気持ち、自分さえよければと思わないで分け合う気持ちがあれば平和な世界が必ずできるというのがもったいないばあさんのワールドレポート展でお伝えしているメッセージなのですがマータイさんがおっしゃっていることと同じだと思うのです。お会いした時にこういう活動を始めてこのような事を言いたいのですと言ったらすごく素晴らしいから頑張ると言ってくださったのと自分達とどうつながっているのかということを知ること自分には世界の問題で何ができるだろうと考えるようになっておっしゃったのですね、自分もそう思って始めたけれどももったいないを世界へとおっしゃっているマータイさんも同じように考えて共感してくれたのがうれしかった。

MC: 今日は3Rの推進北海道大会なのですが3つの3Rを一言で表すのがもったいない、最適な言葉ですよね。

真珠先生: 相手を大事にしたり自然の恵みと作ってくれた人に感謝してのこさないようにいただいたり感謝と思いやりの言葉だと思うのです、もったいないって、その気持ちがあればもったいないことも減っていくしゴミも減っていくし世界は平和になっていくのだと思います。

MC: だいそれたことというよりも日々のちょっとした行動、ちよつとだけ思いやりを足すこと、何かあったときにごめんなさいと謝ることで思いやりも伝わりますよね。最初に主催者の開催挨拶であったようにもったいないということは北海道におられる皆様にも、たとえば残さず食べると下水もきれいになるし海もきれいになって空気もきれいになる、北海道にくる方がおいしいお食事をもっと食べることができる、きれいな空気や環境を、景色を見に来る方もおられますから、もったいないを北海道の観光にもつながってくるのだなと思いますね。美味しいものを食べるのはたのしみですよ。今日は昨日いらしたのですか？ちなみに昨晩は何を

真珠先生: ほっけの皮をぱりぱりに焼いたのが一番おいしかったです。

MC: 皮の部分、骨の部分 おいしいです

真珠先生: 普通だと食べないところの食べ方を教えていただいて忘れられないです。

絵本読み聞かせ & もったいないトーク

MC: 魚のはじこの部分を積極的にとるかたっ
ていらっやいます。一番おいしい部分ですよ
ね。

真珠先生: 私はなれていないのでまだ……

MC: 話がそれてしまいましたが、さあ、そのワー
ルドレポート展のお話なのですがもったいないば
あさんと考える世界の事、2つのワールドレポ
ートを紹介していただいたのですがどこで知るこ
とができるかとかわかりますか？

真珠先生: パート2の方が生き物が消える、動物
園にいる動物たち、みんなが良く知っている動物
たち、ほとんどが絶滅危惧種なのだそうです。な
ぜ、そんな問題が起きていてそれが私達の暮ら
しとどうつながっているのかをお伝えしているの
で是非、見ていただきたいのですがHPとか展示会
も時々開催しているのですが青い方はDVDもで
ているので私としては学校の授業で活用してい
ただいて感想文を書いていたただけで、随分知識
が変わるのでそのようにしていただけたらいいな
あとと思います。本もあります。両方とも本がで
ていて青い方はDVDもできていますのでよろしければH
Pなどで検索してみてください。

MC: ありがとうございます。もったいないばあさん
ですとか人物の描写もすごいのですが先生自
身、どのような絵が得意とかあるのですか？何
を書いているのが楽しいとか

真珠先生: あまり考えたことがなかったのですが
びっくりしました。

MC: 自分は絵を描けないので絵を描いたりする
ことができる人ってどんな気持ちなのかなって絵
が苦手な方っていらっやいますよね、私もな
にも描けなくてうらやましいなという目で見てい
るのですが……

真珠先生: 絵本つくる時はいつもすごく大変で身
につまされる思いでこんなにつらいのにもうやめ
たいと思ってやるのですが出来上がったときの満
足感、このような本が作りたかったみたいな読み
聞かせをして子供達が喜んでいっているのを見
るとやめられないのですね。また、頑張ろうと思
いますね、

MC: また、頑張ろうとみなさんの満足感、更に伝
えていただくために3Rのうちのリサイクルをテ
ーマにした絵本がありますよね。

真珠先生: 『もったいないばあさんまほうのくに
へ』という本があるのですが読んでいいでしょ
うか？

真珠先生:

『もったいないばあさん まほうのくにへ』
朗読

真珠先生: はい ここまでなのですがこの本はこ
のようなマークがついているものをポイと捨てな
いで集めてだせば私達が住んでいる世界でも同
じように新しいものに生まれ変わってくるという事
をお伝えしたいのとマジックで遊ぼうという本に
なっているのですね、マジマジさんは実はマジ
シャンでマジックでの遊び方も巻末で教えてくれ
て後ろにトランプがついていてトランプを切ってマ
ジマジさんが教えてくれるように遊ぶとちんぷい
ぷいのぷいとするパツと2つに分かれるようなマ
ジックでも遊べる本になっています。

MC: 魔法となっていました但实际上に魔法ではな
くちゃんとそのようなものにリサイクルされている
ということですね

真珠先生: そうです。空き缶は金属の板になっ
てから新幹線の一部に使われることがあるそう
です。

MC: カラーが北海道新幹線のカラーに似ていた
かなと思いました。ありがとうございます。さあ、
もったいないばあさん魔法の国へ、このほかに
も色々なところへいきますか？

真珠先生: 森へ行くは魔法の国へと一緒にでた
本なのですが野遊びの仕方を教えてくれる本な
のですね、こういう野遊びの仕方をおしえてくれ
ますよという紹介だけなのですが

MC: 山に入ったときに遊びに行ったときにかけっ
こだけでどんな遊びをしたらよいかわからないとき
ありますよね。

真珠先生: 昔ながらの遊びを教えてくれる人が
身近にいない子供達も増えてしまったので

MC: マスクも作れるのですね、落ち葉で

真珠先生: もったいないばあさんと遊ぼうという本
なのです。もったいないばあさん、色々なところ
で連載をしてきたのですけれどもこれは朝日小学
生新聞という新聞で1年間連載していた時のお
話をまとめました。緑色の方が秋、青色の方が
冬の半年分が入っています。その中からちよっ
とだけご紹介すると、これは**おでんの巻**の
のですね、今の季節、おでんのお鍋おいしいのですが。

真珠先生: おでんのおなべぐらぐら
もったいないといってくるよ。
こんなに ぼこぼこわかしばなしじゃと
あじとかおりがとんじゃうし、ガスやでんきももった
いない

すこしにだってから、にだったらひからおろして
おなべをしんぶんし、5、6枚でつつんでさらに
もうふでくるんでしばらくおくと ずっとぼこぼこぼこ
ぼこわかさなくてもふっくらおでんのできあがり

皆さんご存知ですか？ 魔法の布のチャックミ
たいなものがあるのですが、お鍋の熱が加熱さ
れて中でふっくらおでんが出来上がる、知ってお
くといいと思います。

がちゃばあがでてくる巻なのですが、

たいへんだよみちにテレビがおちているよ、
こっちこっちとひっぱられてみにいくとテーブルに
いす、そうじきにれいぞうこまである、まだつかえ
そうなものばかり どうしたんじゃろねといっていた
らどなりこえがした。あんたたちうちのゴミになん
かよお？ あ、がちゃばあだあ

ここでがちゃばあが登場します。

もういっぱいすててあたらしいものをバンバンかう
のですね、ゴミだってまだきれいじゃないか、もっ
たいない

これ、ぜんぶこわれてまおせないものばかりだ
というかい うるさいね、なにすてようがあなたに
はかんげいがないでしょ、ほつといて

もったいないばあさんの天敵登場

MC: でも、がちゃばあさんってなんか憎めないで
すね。

真珠先生: 江戸時代にも行くのです、もったいない
ばあさんはさっき魔法の国へいきましたけれども
どんなところかなと思ってもったいないことしてない
かいということで遊びに行つて私達にどんなところ
か教えてくれるばあさんでもあるのですよね。時空
を超えて、江戸時代というのは良リサイクルされ
ていた時代だと言われています。そのようなことに
ページをさいているところもあるのですがここで今
日、ご紹介しているのは火事の巻ですね。江戸の
町というのは長屋で紙と木とわらで出来ていたの
で1個に火がつくとぐわあっと燃え広がって大きな火
事になってしまうのですね、だから長屋の人達は
すぐ逃げられるように箱に風呂敷でものをいれてす
ぐ逃げられるようにしていた、1回火がついたらどう
やって消したかという水道がないので下にポンプ
の水が映っているのですが消防士さんに火が燃え
移らないように、その人達にかけろぐらいしか水が
なかったので消し方はまだ燃えていない家をこわし
てそれ以上広がらないようにしたそうなのですね。

火事はこわい、全てが灰になってしまうのももっ
たいないという巻です。

MC: 本当におばあさんどんなところにもいきますね

真珠先生: この連載は1年間して1年分のもったい
ないばあさんの知恵がつまっているのでちょっと漫
画仕立てになっていますけれども、もしよかったら
見てください。

MC: もったいないばあさんなのですが色々など
ろに行つてワールドレポートで世界にも、そして時空
を超えて江戸時代にも行きました。次に行くところ
はどこでしょうか？



絵本読み聞かせ & もったいないトーク

真珠先生:次はもったいないばあさんの一番新しい本、“てんごくとしごくのはなし”という新しい本がでたのですが、天国と地獄わかりますか？死んだ人が行くところが天国と地獄です。どうだったでしょうかというのを読みたいのですが、その前に1個だけ紹介してもいいですか？もったいないばあさんのもう一つの連載、これはまだ十年続いているのですが、その中の一つ和の食というのを全部読むのではなくて何がしたいのかをお伝えしたいのですが和食が世界遺産になりましたね、その時に書いたお話で大人向けのコラムになっています。もったいないばあさんの人となりだとか生活を毎日新聞さんで連載しているのですが和食の和には異なるものが出会って違いがあっても一緒にいることを楽しむという意味がある。和は日本を表す和ですね、和というのは違うもの同士が出会って違いを楽しみながら一緒にいることを楽しむ意味があるそうです。和食は素材の一つ一つを大事にしてそれをダシを使って調和させる料理なのですよ、味を殺し合うのではなくて素材のそれぞれを大事にしてそれを調和させる料理が和食の良さというの聞いてすごく感動したのですね、もったいないばあさんのワールドレポート展でもお伝えしているメッセージは自分さえよければと思わず分け合う気持ちがあれば平和な世界ができるということと命は全てつながっていて一つ一つの命が大事なのじゃよということも大事なメッセージなのですが、まさにこういうこと、もったいないというのは和の心そのものなのだなという風に思うようになったのですね、すごい感動してもったいないばあさんのメッセージを日本のよさとともに世界に伝えなければという風に熱い思いにかられたことがあります。

MC:和があることによってなごみも生まれるという意味もあるのですね、ありがとうございます。

真珠先生:それでは一番新しい本を読みたいと思います。

真珠先生:

『もったいないばあさんの

てんごくとしごくのはなし』 朗読

MC:天国と地獄のお話があって先程もいった和を大事にするおもしろい部分がしっかりと描かれていましたね。

真珠先生:自分さえよければと思って自分が自分がと取り合った人たちはやはり地獄に行ってしまうのですね、地獄の人達は先に先にという形で長いスプーンで食べようとしたけれども全部、こぼれてしまった。しかし天国の人達はお向かいの人にスプーンを使ってわけあって食べたにのみんな仲良く笑顔になりましたということはワールドレポート展ですつと伝えてきたメッセージなので私はもったいないばあさんだからこそ、この本は筋が通っていると言えることだと思うのですね。

MC:本当にもったいないばあさん、どこにでも登場しますが今日はそのもったいないばあさんがこの札幌市のオーロラタウンのオーロラプラザにも遊びに来てくれています。

真珠先生:もったいないばあさん音頭を最後に皆さんで踊って終わりにしたいと思います。

皆さん、踊るとは思っていなかったと思いますが、今日、是非 覚えて帰ってくださいね、皆さん、申し訳なにのですが その場で立っていただけますか？子供がいないので大人ばかりで踊るのも恥ずかしいですが是非、皆さんお宅のお子さんにお伝えください。CDブックにもなっていますので練習してから音楽をかけて踊ります。



会場の参加者と一緒に

もったいないばあさん音頭



MC:もったいないばあさん音頭でした。
ありがとうございました。

真珠先生:頑張って踊ってくれました。

MC:はい ありがとうございます、もったいないばあさん音頭、思わず櫓で輪になって 踊りたくなりましたよね。

真珠先生:子供達が踊ってくれると本当にかわいいんです。この回るところとか

MC:そうですね、ばあさんの杖ですよ、一曲目だけ先生にレクチャーいただいたので歌詞にそって身振り、手振りです。そうですね、お茶碗のご飯粒とかもそうですね。

今日は様々なお話と朗読いただきました。今日 この後サイン会を紀伊國屋書店で行うということで今日、ご紹介いただきました絵本はもちろんそうなのですがもったいないばあさん音頭も是非、覚えていただきたいですね。では今日お越しいただきました皆様に先生から最後のメッセージをお願いします。

真珠先生:もったいないは感謝の気持ちと思いやりの言葉なのですけれども、それを忘れないように、もったいないことしないように皆さんと一緒に生きていきたいと思えます、是非もったいないことしないように気を付けてください。宜しく願います。ありがとうございました。

MC: ありがとうございます。本日はもったいないばあさんの絵本作家 真珠まりこ先生をお迎えいたしました。どうぞ拍手でお見送りください。ありがとうございました。

もったいないトークセッション

(株)エコノス 代表取締役社長 長谷川 勝也 氏
丸吉日新堂印刷(株) 代表取締役 阿部 晋也 氏

(コーディネーター:高嶋 伴子氏)



MC:ここからのお時間はトークセッションといたしまして市内のエコ実践企業2社の方、お二方をお迎えしましてお話をお聞きいただきます。それではご紹介いたします、まず始めに株式会社エコノス代表取締役 社長 長谷川勝也さんですどうぞ宜しくお願いします。続きまして丸吉日新堂印刷株式会社 代表取締役 阿部晋也さんです どうぞ宜しくお願いいたします。会社が札幌そしてエコ実践企業のお二方をお迎えしたのですが、まずはお二方に一人ずつご自身の会社のPRも含めまして改めてご紹介を宜しくお願いします。

株式会社エコノスの長谷川さんから宜しくお願いします。

長谷川社長:みなさんこんにちは ただいまご紹介いただきました株式会社エコノスの長谷川と申します。当社は北海道、札幌を中心にしながらリユース、リサイクルショップを展開させていただいております。特に皆様方も良くご利用いただいていると思うのですがブックオフというお店を札幌市内と札幌市内以外のところでも展開しておりまして更にハードオフ、オフハウス、ホビーオフ、ガレージオフというリサイクルショップも今、札幌中心に北海道でやらさせていただいている企業となっております。

MC:今日はエコ実践企業ということでお迎えしているのですが会社の名前自体もエコがついていきますので、会社の名前で伝わるということがありますよね。

長谷川社長:そうですね、エコノスという会社の名前なのですが、この社名に私どもの想いをこめてましてエコノスのエコはエコロジーとエコノミーの共生のエコからとっています。あの今までどちらかというと生活を楽しみたいとか暮らしを良くしたいという想いをすすめていくと環境に負荷をかけたり地球に負荷をかけたりしていたという状況の中、逆に地球に良くしたい、環境によくしたいという、どこか楽しいところを我慢しなければならない、そのような時代だったと思うのですが、それがこれからは どちらとも共生できる そんな時代が来るだろうという想いとそんな時代を創っていききたいという想いでエコロジーとエコノミーの共生のエコというのと、後はノースというのは実はノース、北のノースというところから取ってましてノースと伸ばすと長いのでノースと短くしたのですが この北の北海道、大地からそのような想いを北海道中に、日本中に、世界中に広げていきたい そんな想いでエコノスという名前をつけております。

MC:代表的に皆様が利用しているブックオフというお店あると思うのですがブックオフ以外に色々な展開をされていて北海道内では〇〇オフとついた様々なお店は何店舗ぐらいあるのでしょうか？

長谷川社長:全道では100店舗程ありまして私どもがやっているのは、そのうち61店舗をやらさせていただいております。フランチャイズというお店の業態になってまして加盟してお名前をかりて北海道で私達がやらさせていただいているのですが当社は61店舗やらさせていただいております。

MC:じゃあ、それ以上にたくさんの店舗があるという事ですね

長谷川社長:そうですね。

MC:たくさんの店舗があるということはより私達が身近に感じられているということでもありますものね。

長谷川社長:おかげさまで昔はブックオフと言ってもなかなか分かってくれる人が20年前はいなくてブックオフという看板を掲げてもこれ何屋さんと言われて、その当時は、古本屋という看板をあえて掲げないとわかってもらえなかった時代がありまして今でこそブックオフという古本屋さんだと思っていたので、そういう意味では身近に皆様感じていただいているのかなと思っています。

MC:ブックオフというお店が始めて誕生したのは20年前ぐらいになるのですか？

長谷川社長:25年たちますか。

MC:おそらく今の若い方たちは古本屋という言葉自体がもしかしたら馴染みがないかもしれないですよ。

長谷川社長:そうですね、古本屋さんは札幌でも少なくなりましたし日本でも少なくなりましたので今の若い人にとっては古本屋イコールブックオフという形かもしれませんね。

MC:安い書籍がある中で昔、自分が読んだ本ですとかこんな本、これぐらいで帰るのだという喜びに出会うのがうれしいですよ。

長谷川社長:私ども、もったいないという気持ちを広げたいことと本を身近に皆様方に感じてほしいというところで仕事をやらせていただいております。

MC:ありがとうございます。さあ、続きまして丸吉日新堂印刷株式会社 代表取締役 阿部晋也さんです、宜しくお願いいたします。

阿部社長:はい、丸吉日新堂印刷 阿部でございます。宜しくお願いします。

MC:阿部さんの会社が実践しているエコの実践も私達が毎日といいますか、色々なところで目しているものを実践されていらっしゃるんですよ、

阿部社長:そうですね、今日はスライドを持ってきたのですが、印刷会社ですね、こちらの方にあるのですが名刺でエコ活動ということで、エコ素材を使った名刺ですね。最初はペットボトル、これを大手の飲料メーカーさんが大量に廃棄されていると、それをリサイクルして名刺を作ってくれとオーダーが来ましてそこで出来上がったのがペットボトル再生素材名刺です。ペットボトルを百パーセントリサイクルをして名刺にすると、そういうところから始まりました。そのあと、20種類ぐらいに色々なこのようなエコ素材の名刺があります。例えば北海道産の小麦わら、江別近郊のこれをリサイクルした小麦わらペーパーとかサッカー場の芝生、これの大量に廃棄されたもの、これとシュレッダーのゴミを一緒に混ぜて紙にして名刺にしている、このようなものです。そして今、やっているのが実はあちらにも展示があるのですがアフリカの方でバナナの茎から紙を作っております。バナナの実ではなく茎の部分です。アフリカザンビアこちらの方で作っています。自然がたっぷりにザンビアの国なのですが今十九人が現地でバナナペーパー作りをやっておりまして、バナナの茎が大量に廃棄されるのです。バナナって一年でぐっと伸びて実を取ると、もうその同じ木からは実がつかないのです。根本から伐採します。伐採してこの大量の茎が廃棄されております。これをもし紙にすると世界中の木を1本も切らなくてすむ量があるといわれています。普通の木は40年ぐらいで伸びてバナナは1年でどんどん再生しますので本当に資源がリサイクルされていくということでございます。たまねぎの皮のような形で繊維質になっております。中から繊維だけをとる作業を現地の女性達に仕事としてやっていただいております。

MC:バナナって考えると小さいのかなと思うのですがバナナの茎ってかなり大きいですよ。

阿部社長:天然のバナナなので非常に大きな太いものなので、これを乾燥させて日本に持ってきます、それを越前の和紙の技術で紙にしてこんな感じでバナナペーパーができると、このような活動をしていまして現在、ザンビアの方にパルプの工場を作っております。今後は紙づくりも向こうでやろうということで進めております。

MC:この仕組みなのですが私、ちょっと前のバレンタインにフェアトレードのチョコレートを買ったのですがそのような仕組みと同じようなものですかね。

もったいないトークセッション

阿部社長: そうです、紙に関してはフェアトレード認定の紙というのは世界中に一つも無いのです。現在、これはフェアトレード認定に出してしまっていて現地の方は審査がおりまして今、国内の方の審査に入っているという状況でございます。

MC: 世界の様々なところで貧困といいますが、雇用がない国というところでは、そこはどのような対価があるのでしょうか？物々交換がメインになるのでしょうか？

阿部社長: これはボランティアではなく完全にビジネスでやっていただいている通常、現地では一日働いて1ドルお渡しする形なのですが今は3ドルお渡しして普通にビジネスとしてやっていただいておりますので彼らがいなくて日本で紙を作ることができない、ビジネスパートナーとしてやっている感じです。

MC: 始めて仕事をする大人の方たちもたくさんいらっしゃるということですね。

阿部社長: そうです、今まで危険な不法伐採とか、そのようなものをやらされていたのですね、やりたくないのにさせられてました、それがこれですと安全な基準にのっとって仕事が出来るということでたくさん働きたいという方がきています。ただ日本で紙がたくさん売れないと雇用も生まれないので今、そこを一生懸命やっているところですね。

MC: 他の会社よりもちょっと名刺が割高なのですが注文が殺到しているということですね。

阿部社長: そうですね、北海道に会社がありますがお客様の8割方は本州のお客様なので、今 ネット通販で簡単にホームページから名刺を買うことができますのでちょっとでも貢献したいというお客様が結構おられまして

MC: リポート率が9割というのも記事で読んだのですが8割が道外の方でということは2割の道内の部分をもっと伸ばしたいという想いというのはおありですか？

阿部社長: 名刺を使う量はたいしたことはないのですが、そのような名刺を使うことによって、ちょっとでも環境にたいして興味を持つきっかけを作ってもらおうということが、うちの役目かなと思っています。

MC: 先程も阿部さんから名刺をいただいたのですが名刺アドバイザーと書いてありますがどんなお仕事なのでしょうか？

阿部社長: 名刺って初対面の方に渡すのですが次にまたあいましょうとなるかどうかで、おそらく人生って相当変わると思うんですね、ですから名刺交換をきっかけに色々なコミュニケーションがとれるような、そういったおもしろい名刺をたくさん作っています。

MC: 先程、いただいた名刺なのですが一番下にバナナ香料インキ付と書いているのですが素敵なバナナのおいがするのですよね、たしかに名刺からバナナの香りがしますね、なんてトークすることができますものね。

阿部社長: そうですね、そこから環境についての話題に切り替わっていきやすいですね。

MC: 後ろに朝バナナでダイエット中と書いてありますね、現在7キロと書いてあります。今も継続中ですか？

阿部社長: 今、だいぶ止まりましたが…

MC: バナナダイエットも成功されたということですね。バナナダイエット始めるきっかけもこれがきっかけですか？

阿部社長: つながりはありますよね、

MC: はい、ありがとうございます。改めてお二人に企業のご紹介をいただいたのですがどのようなことがきっかけでエコを中心というか企業の中で日々の生活の中でというのは、このような皆さんのきっかけというのがあると思うのですが企業で取り組むからには責任感があると思うのですが、まずは会社名でもうたっていますから、やはり色々考えて会社名設立されたと思うのですが…



長谷川社長: エコノスというのはできて10年で実は私 2代目でして私の父親の仕事というのは家電量販店、電気屋さんでした。私も2代目で電気屋に入ったのですが電気屋というのは皆様ご承知のように大量生産、大量消費を皆様方に流しているというか新しい商品が出ましたので買いましょとか、そんな形の業界だったのですがその業界の中である時にリサイクル法案というのが出来まして今までの大量生産、大量消費という部分を少し見直して家電製品もしっかりリサイクルしていきましょという法律が出来ました。その時にたまたま私が結婚して長男が生まれた時でして長男の事を考えると、これから環境を大切にしなければならぬと思ひまして、じゃあ家電リサイクル法案が出来たのだから、もう少し環境にやさしいことをしてみようという風に思ひまして日本全国、色々な新しい仕事を探しているときに最初はハードオフという家電専門のリサイクルショップチェーンに出会ひまして、このハードオフというのは中古のパソコンとか中古のテレビとか中古のオーディオとか捨てないでお客様から買い取ったものを更に必要な人にお客様に売るという仕事をしているというのがわかりまして、これは地球環境に良い仕事だなという風に思ひてこのリサイクル、リユースショップ業を会社として始めたという形になっております。

MC: 最初のリサイクル法案ができた時に新しいものが売れなくなったということはありましたか？

長谷川社長: その当時はなかったです。我々業界的にもリサイクル法案というのは ある意味ショックでして 売りっぱなしじゃ駄目なのだなと売った先に商品が壊れる中で、そのまま大量廃棄とか海外にゴミとして持ち出すとか、そういつたところに我々は注目してちゃんとやっていかなければならないということで結構、業界的にはショッキングな出来事でしたね、私自身もまだ若かったということもありますので、それだったらもって地球にいいことを進めていくべきではないかと思ひこのリユースリサイクルショップに決めたというところなんです。

MC: リサイクル法案が出来てリユース、リサイクルショップが今は色々出来ていますがけれども最初のころ、私もそうなのですが最初にいらなくなったお洋服を持って行くのってちょっと恥ずかしさがあったのですよね、その恥ずかしさを取り払うための企業の努力というのは何かされてましたか？

長谷川社長: 昔のリサイクルショップというのは暗くておいがくなくて何か危険なものが多くて、あやしくて そのようなイメージのお店が多かったのですが私達ももったいないという気持ちを多くの人に広げたいということで気軽にまずは入れるお店づくりをしようということで明るくてきれいである意味格好良くて、安全でなおかつお客様に対していらっしやいませと従業員が言っていく そんなお店を作ることによって皆様方が入りやすいように行こうということを中心けてこの事業がスタートしました。

MC: 今の時期、2月、3月で新生活を迎えるにあたって 忙しくなる時期だと思ひのですが新しいものを見るのはもちろんなのですが、そのようなりさいくるショップ見に行く方が本当に増えますしたよね

長谷川社長: そうですね、私どもが20年前にリサイクルショップをやったときはまわりの人から今度仕事何やるの、雑品やさんやるのとか、非常に社会的に地位の低い業種として考えられていまして働いている社員もなかなか自信を持ってなかったり年数が過ぎていったのですが、やっと今 皆様方がもったいないよね、もったいないからリサイクルショップにものを持っていこうね、子供が大きくなれば着れなくなるものも早くでるし新しいのを買うのならばリサイクルショップに行こうねということでも本当に時代が変わったと逆に私どもが思っているぐらいで本当に皆様方にご利用いただいているのかなと思ひています。3Rの推進活動も必要ですけども本当にあたりまえのように私達の中にもったいないという言葉が生活の中に入ってきていますものね

MC: 阿部さんは今の事業を立ち上げる時にそれまでしてきた仕事はもちろんなのですがなにかきっかけがありましたか？

阿部社長: 印刷会社で紙をたくさん使うのですが僕はずっと北海道で生まれてサーフィンをずっとやっていました、釣りとか自然の中で遊ぶのですが毎年、自然は変化して変わっていつたいますね、そういうのをわかりながら ある時、環境のエコ素材を使った色々な印刷物を作るという打ち合わせの時にそこのおおきな企業の社員の人がたばこを吸いながら、そしてたばこを捨ててそれで打ち合わせしているのですよ、全然、やっていることと言っていることが違う、まずは最初にゴミを捨てないとかちょっと関心を持つとか そこが大事だなというところから名刺からスタートしたというのがそれがきっかけですね。

もったいないトークセッション

MC: スタートしたからには最後までというのがあろうと思うのですが、今、考えていること 更に発展して考えていることなどありますか？

阿部社長: このような仕事をするに更に意識の高いお客様がたくさんいらっしゃるのですね、調べていくとどんどん私自身も勉強していくのですね、そうすると紙の成分からインクの成分から刷り方法から細かく調べていくと、もっともって色々なことがわかってくるのですね、最初のスタート、なんでもいいのでちょっとそこに関心を持って一歩を踏み出すと二歩目が向こうからやってくるような、そんな感じがしますのでもっともって当たり前前に頑張らなくても当たり前前にそれが出来るような会社、そしてお客様とともに それを進めていきたいなと思っております。

MC: 頑張らなくても当たり前に進めていくことっておそらく阿部さん自身の気持ちとしても大事だとは思いますが社員の皆様にご自身できをつけていること、ありますか？

阿部社長: うちの会社では年に何回かですね、実際に海岸の清掃活動とかやる会があるのですが、そのようなところに一緒に参加をして実際にゴミを拾うのですが、そうするとたばこのフィルターがたくさんあるとか、海外から流れているものがたくさんあるとか、色々な現実を知るのですね、そうすると心の中にそれが落とし込まれるので、そんな感じでじょじょに、いきなり社長がやれと言ってもやらないので自分達がまず感じる、感じたら行動するというような、そのよう流れを作っていますね。

MC: 先程、ご紹介あったようにサッカーが好きな方は芝生リサイクルされた名刺作ろうかなと思うようなきっかけになったりだとか、パンとかが大好きな方は名刺にも小麦を使いたいと思う方が多いと思うのですがいろんな北海道のものの中でこれはリサイクルに使えるぞと目をつけているものってなにかありますか？

阿部社長: 日本理化学さんのチョーク、ホタテの貝殻でできたものがあるのですがホタテの貝殻で紙を作ることができるのですね、それを今 紋別の方の印刷会社さんと一緒に作るということで進めていますね。

MC: 阿部さんが考えていることは資源をどうリサイクルしていくかということと長谷川さんは今、あるものを再利用して使用していく考えている流れはお二人とも一緒ですね、阿部さんご自身は自分の生活の中で実践されていることってありますか？

阿部社長: ものを買うとき余計なものを買って捨てるので少し高価でもずっと着れるもの、服を買うとか 本当に今 ものがあふれてしまっている状態ですので長谷川社長はその他かがいらなくなったものを必要とされる人に廻すことを円滑にやられておりますので僕はなるべくものを捨てなくてもいいような、大切に使えることができるようなものを買うように心がけています。

MC: 衝動買いはしないということですよ

阿部社長: しないようにしています。

MC: ありがとうございます、さあ、長谷川さん今もご紹介されましたなるべく衝動買いをしないで、でも買ったものでいらなくなったものは、誰かに使ってもらおうというのが大切だと思いますが長谷川さん、ご自身は事業とあわせて生活で気を付けていること、何かありますか？

長谷川社長: 私自身はなるべく公共交通機関を使うのなるべく歩こうというのを普段から気にかけていますが私の妻が農家出身で結構厳しくて都万のいう事を聞いていけば環境にやさしい、ゴミの分別の厳しいですし、電気をつけていたら厳しいですし、妻のいうことを聞いていけば地球環境にやさしい生活をしているのかなと思っておりません。

MC: 真珠まりこ先生が先程、おっしゃっていたもったいないばあさんを考える時にこれは女性であってばあさん以外、モデルは考えることができなかったとお話されていたのですがお二人方ともパートナーの女性という意味でもったいない精神は女性の方が持っているのかなと感じたりされませんか？

阿部社長: うちのかみさんもそうですし、かみさんの母さんも例えばカレンダーを捨てる時に細かく全部、分別してやるのですね、あれ、すごいなと思いますね。男にはなかなかできない

MC: 針金の部分、くりぬいて細かくするのが楽しかったりしますからね。たくさんのお話いただいたのですがあらためまして長谷川さんからこれからどんな風にエコ実践の部分をもっとのびせていこうという想いと今日、会場にお越しいただきました皆様に3Rの心がけなどを教えていただければと思います。

長谷川社長: 私どもは今、リユース、リサイクルショップをやらさせていただいております。昔は子供が多かったり地域のコミュニティが色々発達していましたので家族の中でリユース、リサイクルがされていましたしコミュニティの中でリユース、リサイクルされていましたが今、なかなかそういったものが無い中で是非、私どものお店を活用していただきたいなと思っています。私ども リユース、リサイクルショップのことを下水道ビジネスと言っています、上水道は新品の品物を扱っているお店、蛇口がいっぱい広がっていて様々なものが上水道として流れてきています。でもずっと水を流すとあふれてしまっって洪水になってしまいますので、下水道が必要なのですね、下水道の役割というのが私達 リユース、リサイクルショップだと思っています是非、ものがあふれない世の中を作っていくためにも私どものリユース、リサイクルショップを活用させていただいて、あ、これちょっともったいないな、捨てようかなと思う前に近所にリサイクルショップがあったから持っていこうよということでお持ちいただければなと思っています。その行動が小さな行動ですが次の地球を創っていくのではないかなと思います。そのお役に立つために私どもも一生懸命に仕事をやらさせていただければと思っています。

MC: 色々なつながりがあると考えるとお店にいて、これはどんな風に使われていたのかなというように思いを巡らすのも楽しいのかもしれないですね。はい、ありがとうございます。

さあ、続きまして阿部さま 宜しくお願いします。

阿部社長: 何か選択するときには少しでも環境に負担がかからないものですか、そのようなものを選ぶことも大事なかなと思ひまして、例えば僕は、車は電気自動車に乗ったりしています。後は仕事として全国にうちのお客様がおられますので月に2回ぐらいエコ名刺を使っているユーザーの交流会というのも行っています。そこで色々な講師の先生を招いて環境について勉強、交流したり、そのようなことをやっています。なのでそのような中から地道に意識の輪が広がっていくような活動をしていきたいなと思っています。

MC: ありがとうございます、電気自動車に乗られている方、あまり自分のまわりになくて、ランニングコストの部分とか電気自動車いかがですか？

阿部社長: 最初はエコという事で購入したのですが実はパワーが3リッターぐらいのスポーツカーと同じくらいあります、すごい早いのですよ、それと燃料代でいくとガソリンがゼロですから今まで、月に3、4万 燃料代がかかっていたのですがそれが今は大体 電気代が月に1500円~2000円かからないぐらいです。それで同じだけ走ります。計算すると5年で270万お金が浮いたのですよ。270万お金がもらえて更に車としてつかえるのでこれは乗らない手はないなと思っています。

MC: 電気自動車って馬力という点でちょっとどうしようかなと考えている方も多いと思うのですがそんなことはなにのですね。

阿部社長: 違うんです、乗る前はおもちゃと思っていたのですが信号待ちで負けることがないくらい、今 私北海道の電気自動車オーナー会の会長もしておりますのでホームページも立ち上げて電気自動車北海道で検索いただくとできますので・・・

MC: このようにお話を聞くとすごく興味をもつ事ができました。ありがとうございました。私達が住んでいる札幌市内でこのようなエコを実践している会社があるのだということが今日のトークセッションで皆様にお伝えできたのではないかと思います。是非、お近くのブックオフ、ハードオフ色々ありますものね、是非調べていただいているなくなったものはお店へ、そして名刺リサイクル、ネット購入もできますので気になった方はHPを調べてはいかがでしょうか？

エコノスの長谷川さん、そして丸吉日新堂印刷の阿部さんにトークセッションにお付き合いいただきました。ありがとうございました。どうぞ拍手でお見送りください。

ありがとうございました。

出展PR①

株式会社マテック 千歳支店

システム企画開発部 課長 村中久敏 氏



MC: さあそれでは本日会場内での出展パネルなどでご参加いただいております環境活動などのお話をきかさせていただきます出展社様にご登場いただきましょう。まずはステージ向いまして右手側、本日は回収ボックスなどもお持ちいただきました株式会社マテック千歳支店システム企画開発部課長村中久敏様です。どうぞお越しください。宜しくお願いいたします。

村中氏: 宜しくお願いいたします。

MC: さあ、本日 マテック様にはステージに向けて ちょうど右手側ですね、様々なパネルと小型家電の回収ボックスなどもお持ちいただきました。ありがとうございます。家の中にあるものって本当にどこに捨てたらいいのかなとかどうやって捨てたらいいのだろうと普段思っている方も多いと思うのですよね、そんなお話聞かせてください。宜しくお願いします。まずはマテックさん、最初にPRをお願いします。

村中氏: 株式会社マテックでは、家庭からでる資源物、例えば古紙や金属製品ですね、また札幌市さんとも協力いたしまして小型家電などの資源物も同時に持ち込みできます「じゅんかんコンビニ24」という施設を、札幌市内では、ただ今8か所開設しております。

MC: コンビニ24というのは24時間営業ということなのですね

村中氏: はい、そうですね、24時間、365日開設しております。

MC: 主に小型家電とはどのようなもの小型は色々あると思うのですが何センチから何センチ、色々あると思うのですが

村中氏: そうですね、一般に家庭用のゲーム機ですとかデジカメですとか、身の回りに多数あると思います。みなさん今お手持ちの携帯電話も小型家電に含まれていますね。

MC: どうしても、回収 収集になってしまうと何時から何時までと決まっていたりですかここに持っていかなければならない 色々、時間の制限があると思うのですが24時間営業でしかも無人ですとかなり便利ですよね。

村中氏: そうですね、仕組みとしましては24時間いつでもご自身で持ち込んでいただきまして、その他、小型家電以外でも古紙や金属製品を重量に応じて受付・持ち込みすることができます、それに応じてポイント、リサイクル貢献度というものが付与される形となっております。

MC: 右手側のコーナーにはその8ヶ所のご案内はあるのでしょうか？

村中氏: そうですね、札幌市内の8ヶ所 住所書いておりますチラシをご用意しておりますので是非、ブースのにもお立ち寄りください。

MC: そして じゅんかんコンビニ24なのですが回収するものを持ちこんで何か特なことがあるという風に聞いたのですが。

村中氏: はい、そうですね そのポイントを一定数ためていただきまして、アンケートを答えていただきますとクオカードもしくはイオンギフトカードと交換することが可能です。

MC: それは持ち込んだ資源の大きさですとか量とか数によってなのでしょうか？

村中氏: 持ち込んだ資源物の重量あるいは数量に応じて、ポイントが付与される形となっておりますのでご利用ください。

MC: ポイントというのはリサイクル貢献度というポイントなのですね。貢献度と聞くとポイントが高まるのがうれしいですよね、さあ、そのじゅんかんコンビニ24なのですが詳しくもっと聞きたいなと言う方にはどこで調べたりしたら良いのでしょうか？

村中氏: チラシもご用意しておりますがインターネットでじゅんかんコンビニ24、または株式会社マテックと検索していただくとそちらの方より詳しく調べていただけます。

MC:じゅんかんコンビニ24に関してもそうなのですがその他の様々な回収に関してホームページには色々書いてありますものね、是非、ご覧いただければと思います。さあ、そしてリユース、リデュースをすすめていただいて本日は後程、トークセッションで登場いただきますエコノスさんのブックオフへということなのですがリユース、リデュースはお客様自身で進めていただいて・・・

村中氏:最終的にはマテックの方に持ち込んでいただけてリサイクルを進めていただければと思っています。

MC:どうしても利用できなくなったものそのようなものは家の押し入れにたまりがちなのですが改めて皆様、掃除をするときに確認していただけるといいですね。さあ、そしてマテックさんでは今年は創業80周年ということで・・・

村中氏:今年、創業80周年を記念しましてリサイクルアート展というのを開催し広く一般から募集したいと思っています。

MC:こちらがポスターになりますよね。もうすでにこのポスターがアート展の作品のような感じになっているのですがどのような記念事業なのでしょう？

村中氏:身の回りにあるいらなくなったものを利用してアート作品を一般から募集したいと思っています。一般のグランプリ最優秀賞はなんと賞金100万円を募集しております一般の部以外にも小学生の部、中学生の部なども設けておりますので是非、こちらも大人以外にもですね、小学生、中学生のお子さんにも応募していただければと思っています。

MC:先程、身の回りにある使わなくなったものとおっしゃいましたが使わなくなったものを小型家電の回収ボックスはもちろんなのですがアートにもできますよという事ですね、よくみると、そのようなところに持って行くのも使い道としてはいいのですがアートになるということはインテリアにもなるということですね。

村中氏:芸術作品として応募していただければと思います。

MC:一般の部のグランプリはなんと100万円ということで小学生、中学生の部も設けていて小学生、中学生の賞をとった方にもいろいろなプレゼントがあるのでしょね。

村中氏:詳しくはチラシをご用意しておりますので是非、お持ち帰りください。

MC:それでは、改めまして本日、ステージ向って右手側にありますマテックさんのコーナー最後にご紹介をお願いします。

村中氏:株式会社マテックでは広く一般から資源物をお持ち込み、回収できます。じゅんかんコンビニ24、こちら札幌市内に8ヶ所ありますのでインターネット等でじゅんかんコンビニ24と検索していただければと思います。本日はありがとうございました。

MC:ありがとうございました。株式会社マテック村中さんでした。ありがとうございました。さあ、家庭にある資源物の古紙、金属製品をはじめといたしまして小型家電など、なんと24時間営業の無人施設があったのですね、市内8ヶ所だそうです。じゅんかんコンビニ24と検索するかマテックで検索なさってください。またステージ向って右手側、ただいまご紹介ありました更にくわしいご案内もおこなっておりますのでパネルの展示、また詳しいご紹介、チラシなども手に取ってご覧くださいませ。



一般社団法人 札幌消費者協会

理事 奥谷 直子 氏



MC: 本日会場内ワークショップなどでご参加いただいております出展団体様に出展PRとしてご登場いただきましょう。ステージ向いまして左手側で出展ご協力いただいております、一般社団法人 札幌消費者協会 理事 奥谷 直子さんです。どうぞ お越してください。宜しくお願いいたします。

奥谷氏: 宜しくお願いいたします。

MC: 本日 札幌消費者協会様にはステージに向って 左手側のコーナーでワークショップの体験コーナーとしてご協力いただいているんですね？

奥谷氏: さっぽろスリムネットの環境教育事業として体験コーナーでごみ分別ゲーム・買い物ゲーム・環境かるた、パネルでは3Rについてのエコクイズにチャレンジしてもらいます。

MC: かるたなどテーブルの上にし楽しそうなものがたくさんありますが、どのようなコーナーなんですか？

奥谷氏: ごみの分別に迷ったり、困っている皆さんがスッキリ解決でき、エコで家計も節約できる、とっても役に立つ分別ゲームです。また、古布で作った野菜は買い物ゲームで使うものなんです。模擬店で買い物をして頂いてごみの減量やリサイクルについて学んでもらうゲームです。横のテーブルでは環境かるたを並べてありますが、これは札幌消費者協会と札幌市立大学の学生さんとのコラボで作ったものです。エコ生活のヒントがいっぱいで楽しく遊んでもらっています。

MC: コーナーに参加されている皆さんも、各ゲームでわかりやすく、ごみの分別やエコ生活のことを楽しみながら理解していただけますね。

奥谷氏: そうですね。皆さん楽しんで参加いただいています。

MC: ゲームだけでなく、エコクイズもありますね。先程私も参加してみたのですが、全問できませんでした。

奥谷氏: エコ関連のクイズを4問、パネルに示しており、エコに対する認知度チェックを行っています。

MC: 簡単そうで、以外に難しかったです。今回のテーマでもある、もったいないに関する問題もあり 真珠先生のトークステージの中でも出ました、マータイさんの選択もありましたね。

奥谷氏: はい、以外に皆さん答えられないようなクイズやゲームで理解していただいて良い機会かと思います。

MC: 楽しみながら、理解していただくのは良いですよ。身近なことでも知らないことを、今日参加いただき知ってもらえれば有難いですよね。

奥谷氏: はい そうですね。

MC: 奥谷さんの団体として、普段どのような活動をされているのでしょうか？

奥谷氏: 今回のようなイベント参加以外にも札幌消費者協会は札幌市からの受託事業として消費生活相談、消費生活セミナー・講座の開催及び高齢の方や障がいのある方の消費者被害防止ネットワーク事業を実施しています。

MC: 今後の事業PR等ありますか

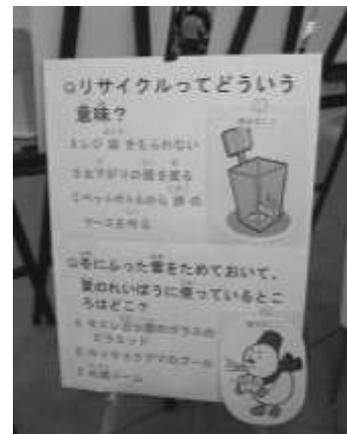
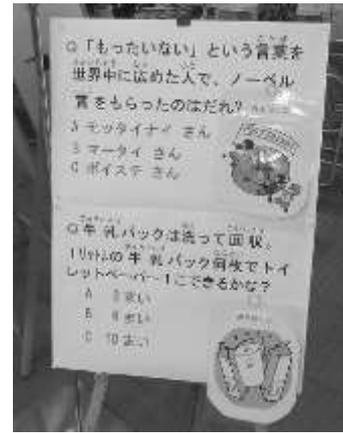
奥谷氏: 食品ロスに関する啓発事業として札幌市と共催で連続講座「食べものと環境の輪っ！ “食べる”と“捨てる”を考えよう」があります。食を通して親子で考える講座で3月14日、27日札幌エルプラザ 2階の会議室、食材研究室で開催します。参加対象は小学校4～6年生の親子10組です。14日は買い物ゲームのあと買い物とカレーライス調理を体験することで容器包装と食品ロスについて学びます。また21日にはサクラマスの命の循環から見てくると、そして27日には学校給食のリサイクル現場を見学後、親子で調理し、フードリサイクルについて学びます。楽しく学べる講座ですので、是非ご参加いただければと思います。

MC: 今日のような、買い物ゲームや体験コーナーもあるんですか？

奥谷氏: はい、講演だけでなくここに紹介しています買い物ゲームもあります。

MC: 詳しくはあちらのコーナーで資料もあるんですよ。是非興味のある方は参加くださいませ。

奥谷さん: この後もコーナーの方どうぞよろしく願います。ありがとうございました。



エコパフォーマー RIO 氏



こんにちは、私の名前はクラウンRIOと申します。本日のイベントを読み上げましょう。3R推進北海道大会、固苦しい名前ですけども難しいことはありません、みんなが出来ること、簡単なことを一つずつ行っていくと地球にやさしく環境にやさしく町に人にやさしくなれるというそのようなお話でございます、今日はとても意識の高いお父様、お母様、お爺さま、お婆さまが多いのですが、まあできればお子様たちにもこのようなものを覚えていただかなければいけないということで私のような、ちょっと派手な男が東京からやって参りました。自己紹介をしたら始めたいと思いますが僕の名前は改めて言いましょ、RIOと言います。東京を中心にこのようなサーカスを通じてみなさんに楽しい時間を過ごしていただくというお仕事をしておりまして、札幌には実は住んでおりませんが、札幌にはちょこちょこお世話になっておりまして、昨年の秋のだいどんでん以来、久しぶりにやって参りました。その時にSTVのどさんこワイドさんにもちょっと出していただきまして、皆さんにお会いするのを楽しみに久しぶりにやってきたという次第であります。しゃべりすぎると時間がのびて怒られてしまうので、ちょっと色々やってみましょう。

僕みたいな恰好の人がやることと言えばこのようなものが一番有名だと思いますがちょっと膨らまします。ちょうどいいところにお父さん、お兄ちゃんお超しいいただきました、こちらにVIPルームが用意してありますのでお座りください、お兄ちゃん、こんにちは！ちょっとこれを持っていてくれるかな、お兄ちゃんに風船を持ってもらったから、それを使って…あれ、今は失敗しましたけれどもこれからすごいことがだんだんできてきますので、そのようなときにどういうリアクションをしたらよいか…何かでてきた…広げてみましょう。3、2、1 はい、拍手

皆様の拍手と笑い声の力でどんどんお客様が増えていくでしょう。そうするとどんどん楽しくなってエコの話、3Rの話がお勉強できるようになりますので必要以上に盛り上げてご覧ください。それではRIO君の楽しいエコパフォーマンス始めてまいります。どうぞ、宜しくお願いいたします。では色々、始めていきましょう！

まず皆さん3R、さっきからお姉さんたちいっぱい言ってくれていますのでご存知だと思いますが、僕の名前 RIO 裏返すと3つのR、実はRIO君もRから始まる名前です、偶然ですね、でもRIOが大事なRではありません、今日はRから始まる3つの言葉を皆さんに覚えていっていただきたいのですが、1つ目を紹介しましょう、これはとっても有名です。ゴミをそのまま捨てないで大事にしてまた使ったりするという言葉で有名な言葉があります。皆さん、大きな声で読み上げてみましょう。読みますよ、せーの、リサイクル。リサイクルについてちょっと覚えていきましょう。はくしょん、ぶーぶー こういうときはゴミに捨てるのが大事なのです、あらあらあー燃えない、ティッシュ だからか、こちらにあるのは燃える、そしてリサイクル、これの事か、じゃあこれはどのゴミか、後、今日はいっぱいあるのだけれどもちょっとこんな金属の塊、そして新聞紙、この3つが、はたしてどれに入るかをちょっと皆さん考えてみましょう。すぐわかると思いますから、終わっちゃうからつまらないね、投げてみて面白かったら拍手です。そうですよ皆さん、気を抜いてはいけません、ゴミを投げながらここから何かが変わります。3、2、1 わかった？ 拍手

でも投げるのが目的じゃないんだよね、たっぷり時間をとりました聞いてみましょう、金属のゴミはどれだ、どのゴミ箱かな、さあ燃えない 正解！それでティッシュは燃える、そして新聞紙はその通り、リサイクル、ちゃんとゴミは色々なゴミ箱に入れることが大事なのです。偶然ですね、あそこにゴミの分別コーナーというのが今日ありまして後でどうぞ試してみてください。さあ、こういったものをゴミ箱に入れていくとどうなるかを皆さんにご説明しましょう、例えば色々なものを使うときに材料がこのようにぐちゃぐちゃに混ざり合っております。工場に連れて行かれどうなるか、よいしょ、よいしょ、混ぜ合わせます、RIO君のからだの背中その後ろ混ぜ合わせます、ぼぼぼぼぼ、そしてどうなるか、前に出します、もとどおりだったら拍手をしましょう。

そうです、工場の力 素晴らしいものを持っています、続いてもう一つ こちらみんなが良く飲むお酒やジュースの入ったビンです、飲み干したビンがごさいます、これをどうするかというと、もう一度、ビンの再生工場に連れていかれます、この工場どんな力を持っているか、このビンを魔法の力で消し去ってしまうのです、3、2、1、はい消えてしまった、このように口をして再生工場に入れるとピンはよいしょ、このように一度粉々になっていきます、そして皆さんの元に新しいピンとなって帰っていきます。大事なことを大きな声でもう一度言いましょ、せーの リサイクル、どうぞ覚えておいてください。

では次のRです、リから始まるのでリはそのままでも裏返ししましょう、じゃじゃじゃん、リデュースです。これは、あまり聞きなれない言葉だと思いますが、なるべくゴミを出さないようにするということ、これも自分の身近なことからやれるのですが、僕の場合、さっき失敗しちゃった風船 これも、しおしおなのでこのままだとゴミになってしまいます。しかしがんばって膨らませると違うものに生まれ変わります。これも曲に合わせて何か皆さんの知っているものになっていくので良く見ていてくださいね、先程のしおしおの風船、こうなった場合もあきらめずに膨らましてあげると、こんな感じ、そしていらぬところを息をかけると、そしてこれは捨てずにちゃんととっておきましょう、そして結んでいくとまだ、なんだかわからないと思います。

作り置き風船、じゃじゃじゃーん これ実はさっきみたいにしおしおになったりちぎっちゃった風船を再利用、リデュースするために僕がわざわざ取っておいたものです、捨ててしまえばゴミになるけれどもなんと、もう一度使うとこんな感じでなんだか見たことあるものになってきたような気がします。これは置いておいて、もう一本、緑色の風船ぐるぐるぐる、さあ、こんな感じ、だんだん出来てきました、これと先程の灰色の風船、合体していきます、なんだかみたことがあるかもしれません。特にお子様なんかは見た事があるかもしれません、顔を書いていきます、こんな感じで、顔を書いていくと森に棲んでいるやさしいキャラクターが今日は一匹出来上がりました。最後にこれも捨てちゃうようなパーツを組み合わせた葉っぱの傘、これをこうして差し込んであげると今日、リデュースで生まれ変わった新しい風船、トロの出来上がりです。トロがずっと住んでいられるようなきれいな森を守るために大事なことはゴミをださないこと、それがリデュースが、願っていることであります。

さあ、これですね今日、だれかお手伝いをしてくれる人が一人いたら折角ですからこのリデュースの願いをこめてプレゼントしようと思うのですがだれかいませんか？

さあ、どうぞこちらへ、気をつけ、礼、あれ、お手伝いをしてほしいのだけれどもいいかな、今日、皆さんにやっていただくのは3つのR、最後の一つです、こちらじゃーん リユース、使ったものをもう一回使うということです、このために今日 用意したものがあります、実はピクニックにこの前いったときに使った紙コップを洗ってもってきました。この紙コップの真中の黒い線にそってちよきちよき切ってほしいのだけれどもちよきちよき切ってくれますか？教育テレビみたいですがワクワクさんとゴロリ 年代が違うか皆さんはのつぼさんとゴン太君かな、さあ ゴン太君頑張って、ちよきちよき切ってもらって、ピクニックで使うものいくつかありますね、紙コップ以外にご飯を食べた時の紙のお皿、そしてご飯を食べる時にももちろん使うものです、割り箸、これを使っておもちゃを今日、作ってみようと思います。ゴン太君、僕がMCでつないでいる間に、これ紙のお皿の裏側に今日は時間の都合で両面テープを張っております。本当はのりでもいいのですが、今日はごめんなさい、両面テープで進めますが、ここにさっきの紙コップをはりつけてちょうだい、そうするとどうなるか、お皿廻しです、ピクニックにつかうときのものでお皿廻しのおもちゃができてしまいました。

エコパフォーマンス 3つのRを学ぶエコパフォーマンス

さあゴン太君、今日最後のお手伝いです。これを持って回してみなさんから拍手をいただいでください。うまくいかなかったかな、そのまま渡すとゴミ箱にぼいと捨てられちゃう気がするので袋に入れて渡しましょう。これをちゃんと家で練習してうまくなってください。まずはこれをお持ち帰りください。大きな拍手を、参加賞です、

お皿廻しうまくなっていくとどうなるかを見ていただきたいと思います。これは全員のお手伝いが必要なショーとなっております。皆さんにお願いしたいこと、右手、左手、全部出して音楽にあわせて手をたたきます、元気よく ピピッ……、ゴン太君が頑張ったらこれぐらいできるようになるよと言うのを……あごに、だーっだー手拍子、もう1回だけチャンスをください。いきますよ大成功、そうです、こんな感じ、ゴン太君 さっきうまくいなくて失敗しちゃったから、かっこいいと見せたいからもう一回だけ手伝ってくれない、今度は大丈夫、うまくいよ ちゃんとお手伝いするから、もう一度、気をつけ 礼 ピピーピッこれを両手でしっかり持って、やることはシンプルです、今日はいまくなるショートカット、お皿がのります、大丈夫、絶対うまくいくからね、手を放したら乗ります、皆さん力を貸してください、せーの、さあ、3、2、1、皆さん恥ずかしがらないで……一緒に。

このパフォーマンスクライマックスです、もりあげてもらいましょう。3、2、1、拍手 気をつけ、礼 ピーピー リデュース お手伝いしてくれたお礼にリデュースの守り神、トロをプレゼントしましょう、お父さん、こちらおうちの中に飾ってあげてください。トロがしぼむまでの間、ゴミの分別だとかゴミを出さないよというお約束の風船でございますから、3R守ってもらいましょう、大きな拍手、最後にどうぞ。



さあ、皆さん、おつきあいいただき本当にありがとうございました、3つのR、最後に大きな声で1回ずつ言いましょう、1つ目のRなのでしたか、せーの リサイクル 2つめはリデュース、最後はリユース そう3つのRですこれらをまとめて最後に皆さんにもう一つだけ伝えたい言葉がございます、これを見ていただいてわたくしのショータイムおしまいになりますが良い見ていてください、箱をいっぱい使うような芸がございます、最後にこの曲にあわせて、皆さん もう1度だけ手拍子、ピッピ、ピッ…… この箱がせーの わあ大きな声で読んでみましょう、これなんて文字 せーの エコ そうです、この言葉忘れないで帰ってください、その為に危険な技に挑戦します、よいしょ！

そうです、今日学んだことは言葉を覚えることではありません、身近にできる活動の一つずつ始めてくださいというお願いでございます、そういった皆さんの活動が繋がっていくと黒くなっているお空があったとしても皆さんの思いできれいな虹がかかる空が戻ってくることでしょ、以上RIO君のエコパフォーマンス、最後まで本当にありがとうございました。



MC:RIOさん、ありがとうございます、最後のエコという文字がでるパフォーマンス 成功して良かったですね。

RIOさん:あーどきどきした。

MC:最後にエコとでないと思わないですよ、そして参加してくれた男の子もありがとうございます。ちょっと最初緊張していた感じもありましたけど、でも血廻しの時は皆さんの3、2、1 いただきましてありがとうございます。さあ、RIOさん 本日のパフォーマンスなのですがエコパフォーマンス、環境ですとか、エコって とても難しいものと思っている方も多いと思うのですが、RIOさんのパフォーマンスを見ていると、別に難しいことではないのだなという事がわかりますよね、パフォーマンスをやるうとしたきっかけが何か教えてもらっていいでしょうか？

RIOさん:そうですね僕も風船が好きだったりします、先程のように大きな風船を作ったりするのですがちぎったものをポンポン捨てていたらなにかもったいないなとそのような気持ちになったのです、そうしたらちぎった風船で違うものが出来たり、ちぎった風船3つ、4つあわせたらさっきの大きな生き物が出来たりちぎったきっかけでした、これをパフォーマンスにしたらおもしろいかなと思ったのが、このパフォーマンスを始めた一つのきっかけとなっております。

MC:確かに風船は伸びてしまうと使えないのではないかと思っていたのですがかわいらしいトロにもすることが出来るということでありがとうございます。さあ、3Rなのですが3Rの中でも二つのR、リデュースとリユース ごみがでるのをおさえようというリデュースとそしてリユースは再使用しようというこの2つのRについて更に皆さまにわかっていただきたいなという思いがあるのですがRIOさんはこの2つのRについてどのように考えていますか？

RIOさん:僕の話だとさっき風船の事をいいましたけれど皆さんに出来ることだったら一番いいのがエコバッグ、これが簡単にできることです。バッグの大きいものを一つ持ち歩くだけでお買い物した時に買い物袋が出なくなります。後は水筒、僕水筒男子なのです。いつも水筒にお水とかコーヒーを入れて持ち歩いています、これはお外でペットボトルとか買わなくなる大事な秘訣だと思いますので、そういった家にあるものを使うということが良いのではないのでしょうか？

MC:確かに、水筒って、飲物を持っていないと色々なところに寄ってしまいがちなのですが、時間とかお金の無駄にもつながりますよね、また自分の好きな飲み物を飲めたりとか冬は家から暖かいものを持っていけるということが自分のためにもいいですよ、普段の生活で心掛けていること、ご自身の中でも考えてみてはいかがでしょう。RIOさん、今日は3Rでパフォーマンスいただきました。

MC:今後、RIOさんをどこかで見ることはできそうですかね、札幌市内で…

RIOさん:そうですね、先程、ちらっといいましたが毎年、秋 だい どん でんというお祭りが大通り近辺で行っています、ダンスがあったりパフォーマンスがあったりするのですが、おかげさまで3年連続で出場させていただいておりますので今年も勝手に出るつもりでおりますので、もしよろしければ足を運んでいただければと思いますし、後もう1つ全国でエコパフォーマンス、わたくし飛び回って活動しておりますので、偶然皆さん旅行に行った先々とかで あらっ知っているはこの人 となるかもしれませんので覚えておいていただければと思います。

MC:今日は3Rをテーマにパフォーマンスいただきましたが秋のだいどんでんに関しましてはパフォーマンスメインで更に磨きのかかったパフォーマンスを見せていただけますか？

RIOさん:パフォーマンス中心でやらしてもらっていますが、もちろん風船をゴミにしないなど心掛けています。チェックしてください。

MC:秋にも札幌市内で会えること楽しみにしています。ありがとうございます。



MC: 皆様、本日は平成26年度3R推進北海道大会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。今年はおもったいないライフスタイルを始めましょうをテーマに、本日オーロラタウン、オーロラプラザでたくさんの皆様にご参加いただきました。今日、会場内でたくさんの 皆様にクイズラリーにご参加いただきました。誠にありがとうございます。皆さんの生活の中で取り入れることができる気づき、皆様ありましたでしょうか？私はゴミ分別ゲームでプラスチックマークがついていないもの、燃えるゴミに出していいということを知りました。恥ずかしながら、でもその気づきが来週のゴミ出しにつながると思っています。ありがとうございます。最後に閉会のご挨拶といたしまして北海道地方環境事務所 環境対策課課長永井均より皆様にご挨拶があります。

永井課長: 本日は平成26年度3R推進北海道大会にご来場いただきまして、誠にありがとうございました。また、関係者の皆様には、本大会を盛り上げることに協力いただき、本当にありがとうございました。北海道地方環境事務所を代表し、心より御礼申し上げます。

本日は、「もったいない」をテーマとして、一般の方々を対象とした3Rの普及啓発を目的に開催しましたが、オーロラタウンに買い物に来られた沢山の皆様、とりわけ家族づれの若い方々に参加いただくことができました。それらの皆様の心には、3Rという文字、そして3Rの意義が刻まれ、今後においては3Rを意識したしっかりとした行動につながっていくものと確信いたします。

循環型社会のさらなる構築に向けて、皆様方には今後ともお力添えをいただければ幸いです。その願いと合わせ、皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念し、終了のごあいさつとさせていただきます。



平成27年 3月

北海道地方環境事務所 環境対策課

〒060-0808

札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎

TEL 011-299-1952

FAX 011-736-1234

委託機関 (株)セレスポ 札幌支店

〒003-0809

札幌市白石区菊水9条3丁目5-13

TEL 011-821-1810

FAX 011-821-1811

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「Aランク」のみを用いて作製しています。